



横浜みどりアップ計画 地域緑のまちづくり事業

R E P O R T

◎地区名 **前田町桜の丘地区**

◎団体名 **桜の丘をはぐくむ会**

◎計画名 **東戸塚の桜坂と緑を地域のシンボルにする計画2**



◎所在地：戸塚区前田町

◎取組期間 **3** 年

◎協定締結期間

平成 **29** ~ 令和 **元** 年度

横浜みどりアップ計画とは

緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、「横浜みどり税」を一部財源として活用しながら、「横浜みどりアップ計画」を進めています。

詳細は...

地域緑のまちづくり事業とは

地域が主体となり、住宅地や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、市民との協働により緑化を進めるものです。

詳細は...



地区の範囲図及び緑化実施場所

団体・地区の概要

いくつかのこれまで活動していた、「さくらクラブ」「堂屋敷公園愛護会」「桜と緑を守る会」の何人かのメンバーと管理組合内に設置された「植栽委員会」が集まって「前田町桜の丘をはぐくむ会」を構成しました。前田町町内会とも連携して活動しています。

東戸塚駅周辺は、急速な開発が進み、緑の減少に歯止めが必要な地域です。この地域の中で、当マンションは「緑の孤島」といえる貴重な存在ですが、未利用地の雑草・雑木の繁茂や、開発前からある桜の老木化が進み、緑の質と量を損ねていました。

また、マンション住民間の連携不足や、地域住民の高齢化に対応した、地域の緑を守る活動を活性化することが課題となりました。

取組(計画)の概要

日照、排水、植生などの異なる3つのゾーンで、それぞれの特性に応じた緑化を進め、地域住民が四季を通じて楽しめる地域のシンボルとなる丘を創ります。

桜の景観ゾーンは、丘の東斜面で、東戸塚駅への道とJR線が並走し、通行人・乗客が緑を楽しめるエリアです。桜坂や堂屋敷公園のサクラ並木を蘇らせ、アジサイなど花の咲く中低木の新植を行い、地域の桜の名所としての完成度を高めます。

緑の回廊ゾーンは、丘の北側の平地で、地下水位の高い土地でもよく生育するヤマボウシなどの花木類による、地域のモデルとなる緑の回廊創りを目標に、前田町町内会とともに緑を増やします。

緑の交流ゾーンは、丘の南斜面で、歩道が貫通する里山的雰囲気漂う森です。日照を改善し、未利用地に緑化植物の苗畑やスイセンなどの花畑を造り、野鳥や昆虫類が好む樹種などを植え、緑を通じた、子どもと高齢者、マンション住民と地域住民の交流の場を作ります。





桜の景観ゾーンの全景



横須賀線と桜坂



樹名板の設置

主な取り組み実績

助成金額合計:12,048千円

民有地緑化

3つのゾーンの特性に合わせた緑化を実施

「桜の景観ゾーン」では桜並木と堂屋敷公園にジンダイアケボノを植樹し、地域に愛される桜並木の景観の完成度を向上させました。「緑の回遊ゾーン」では向山公園や壁面の緑化整備を行いました。「緑の交流ゾーン」にはDIYコーナーとして苗畑を整備し、地域住民の交流の場とするとともに、桜の植樹やユリなどの花、低木を植栽しました。また、並木の桜を景観木として指定し、必要に応じて樹木医による診断・治療のための剪定、樹名板の設置等を実施しました。



ふれあいの径のシダレザクラ



広報用のビブスの作成



タネ団子づくりイベントの開催

活動支援

桜の管理講習会を開催しました

樹木医による桜の管理の講習会を開催し、桜並木の景観を地域で残してゆく方法を勉強しました。また、広報誌「桜坂」の作成や維持管理用の資機材、活動をPRするため着用するビブスを購入しました。



広報誌「桜坂」の発行



緑の交流ゾーンのチューリップ畑



DIYコーナーのスイセン畑

3か年の取り組みを振り返って

沿道を利用する地域の皆さまや公園を管理している老人会の皆さまから、楽しみですね、きれいですね、と声をかけいただき、交流のきっかけができました。新しい人が加入してくれたので、世代の違う人たちがコミュニケーションが取れるコミュニティづくりができたと思います。ジンダイアケボノ、シダレザクラ、ヤエザクラなど桜の種類が増えたことで、8種類となった桜の時期の楽しみがさらに増えました。また、鬱蒼としていた森の下草がかられ、子どもたちが安全に遊べる空間になり、かつては暗くて近寄りがたかった場所を、四季折々の散策コースとして甦らせることができました。

【問合せ】

横浜市環境創造局みどりアップ推進課

【TEL】045-671-3447

【FAX】045-224-6627

【Mail】ks-ryoka@city.yokohama.jp